

市がめざすセーフコミュニティとは

For Tomorrow with a Smile Toward A Safe Community Koka City



ぐうぜんの事故はない たまたまのケガもない

あの時こうしていれば、では遅いのです。
根拠のある予防策で防ぐことはできます。



市では重点事業のひとつとして、セーフコミュニティ認証をめざした取り組みを進めています。

セーフコミュニティ(SC)は、聞き慣れない言葉ですが、世界保健機関(WHO)が推進する安心安全まちづくりの国際認証制度です。現在、世界300余りの都市が認証取得しています。

国内では、すでに9つの自治体が認証取得し、本市を含めて4市が認証に向けて準備を進めています。市が認証取得すれば、滋賀県内では初めてのことになります。

SC認証条件は 7つの指標を満たすこと

市は平成19年、市教委信楽中央公民館主催の青少年野外活動事業で二人の幼い命を奪う重大な事故を起こしてまいりました。以来、主催事業や共催事業、後援事業に対し徹底した事前点検を行うほか、毎年7月31日に「青少年活動安全誓いのつどい」を開催するなどし、組織全体で安全管理体制を強化し、二度と同じような出来事を起こさない努力を重ねてきました。

一方で、こうした行政の取り組みだけでは市民皆さんの安全を守るには限

界があることから、市民活動のなかでけがや事故を防いでもらおうと、SCの認証をめざすこととしました。

SCの認証を受けるには、基準とされる7つの指標を満たすことが条件になります。大切なのは、さまざまな分野の人たちが連携し合う仕組みや事故やけがを記録する仕組みを整え、根拠に基づきまちぐるみで取り組まなければならないことになり、行政だけの施策や事業だけではSCとして認められないことになります。



市長
中嶋 武嗣

市ではこれまで市民皆様の生命財産を守ることを第一に誰もが安心して暮らしていただけるよう、教育や福祉をはじめ、きめ細かな施策を実施してまいりました。

特に安心安全なまちづくりには、県下に先駆けて危機管理担当課を設けるなど力を注いできました。

市民皆様のご参加を

しかし、少子高齢化や核家族化が進むなかで安心安全を確かなものとしていくには市民皆様や団体、企業などが連携して取り組める仕組みをつくっていくことが有効です。

さらに、事故やけがをデータ化し、原因と対策を明らかにすることで予防が可能となります。

市がめざすセーフコミュニティは、市民皆様の参加が不可欠です。具体的な仕組みがまとまれば、ぜひともご協力をお願い申し上げます。

認証のための7つの指標

- 指標1** さまざまな部門・分野の人たちが連携・協力し合う仕組みを整え、まちぐるみで取り組むこと。
- 指標2** すべての年齢・性別・環境や状況を対象として、長期的・継続的に取り組むこと。
- 指標3** 見守りや手助けが必要な人、被害を受けやすい立場の人・環境・状況にも有効な取り組みをしていること。
- 指標4** 根拠に基づいた取り組みをしていること。
- 指標5** 事故やけがを記録する仕組みがあること。
- 指標6** 取り組みおよび効果・影響を評価するための評価基準があること。
- 指標7** 国内外のセーフコミュニティのネットワークに継続的に参加していること。

そこで市では昨年8月までに、約40の関係機関や団体から99人の皆さんの

参画のもとに推進体制を整え、取り組みを進めてきました。

データを根拠に 5つのテーマ

SCは、事故やけがをなくし安心安全なまちをみんなで作っていくことを目的としています。具体的に取り組んでいくためには、データを根拠として課題を抜き出し、効果的な対策を考えてみんなで行っていき、仕組みをつくっていくかなければなりません。そのために各種団体から参画いただいた皆さんによって、推進母体である協議会、

員会、仕組みをつくっていく対策委員会を組織しています。

対策委員会は、「自殺の予防」「交通安全」「災害被害の防止」の5つのテーマで構成されています。これらは、市が行った意識調査や持ち合わせているデータから、市内で起こっている事故やけがが比較的多く発生していることから選定されたものです。